

けやき倶楽部歴史グループ分科会 5 月度活動報告

日 時	2021 年 5 月 18 日 (火) 10 : 30~12:00
場 所	オンライン分科会
参加者氏	10 名
次 回 予 定	<p>1. 会員発表</p> <p>(1.) Ykt「東インド会社とアジアの海」第1章要約</p> <p>① ヴァスコ・ダ・ガマのインド「発見」</p> <p>エマヌエル一世の航路開発指示により、1498年3月 ガマ一行3隻喜望峰回りで東アフリカモザンビーク（インド洋西域交易の最南端）到着。ガマは武力で水と物資を奪い、モンバサを経てマリンディに。インド商人に会いインドに向う</p> <p>② ポルトガルの海の帝国</p> <p>ガマは「勇気ある冒険者」、「インド航路の開拓者」は一面で、現地の慣習や事情を無視した暴力的な取引、略奪、殺戮者でインド洋海域の異文化共存秩序の破壊者であった。これ以後、ポルトガルはガマが開発した。インド洋海域の港町（点）を繋いで線とし「ポルトガルの鎖」で維持しようとした。線の内側＝海、エスタード・ダ・インディアは「海の帝国」</p> <p>③ ポルトガル海上帝国の成立</p> <p>ポルトガルが武力で独占した貿易は香辛料貿易だけであり、インド洋での多種多様な交易はこれまでと変わらず、多種多様な商人が競合しつつ担っていた。</p> <p>④ 海の帝国の限界</p> <p>ポルトガルの海の帝国は本国との関係が薄れ活気を失っていった。国王がスペイン王フィリペ2世が兼ねる様になった影響もあった。フィリペ2世は欧州内王家間の戦争、新教徒との闘い、米大陸経営に忙しく東インドに集中できなかった。</p> <p>質疑：ポルトガル王がインドを目指した要因は⇒</p> <p>ロケーション、国王の系譜、はしか、航海技術など考えられるが、別途資料作成</p> <p>(2) Tki「テキスト『東インド会社とアジアの海』詳細目次」</p> <p>文庫本の原本『興亡の世界史第15巻』目次より詳細目次作成し、ないよう把握。</p> <p>(3) Tkd「スペインのアメリカ支配」</p> <p>銀が世界をかけめぐり、経済における世界の一体的な連動が促進された。大量の銀供給を実現したスペインのアメリカ支配は、いわばその一体的な連動への触媒のような役割を果たした。現代に向かってのグローバル化の始まり、である。</p> <p>しかしそのなかで、スペインをはじめヨーロッパ諸国の側は、まだ主導権をもっていたわけではなかった。むしろ、大量に交換可能な「商品を生産できた中国トインドを核としたアジア交易圏にこそ世界経済の中心があり、ヨーロッパの位置はまだ周辺にあったとみられる。</p> <p>2. 今後の予定一次回・次々回 オンライン分科会 例会報告書に記載</p>